

保護者 様

なのはなガーデン

なのはなガーデンでは、静岡県特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例に基づき、本年度の自己評価と保護者評価を行いましたので下記の通りご報告いたします。

特定非営利活動法人なのはな なのはなガーデン 2019年度 自己・保護者評価報告書

1 なのはなガーデンの保育目標及び本年度の重点目標

- 子ども像 1 自主性・自発性を持つ子ども（自己肯定感と他者を認める心）
2 丈夫な体を持つ子ども
- 保育目標 1 自主的、自発的な子
2 意欲的になかまとあそぶ子

これらの目標を達成するために、「乳児理解と育ちの記録・あそびの考察」を研究テーマとし、保育の充実・向上を図ることを重点目標とします。

2 評価項目の及び取組状況（A=よくできた B=ふつう C=できなかった）

（1） 保育

日常の保育を丁寧に、充実して実践を重ねることを大切にしてきました。そのための研究システムを作り、職員全員で「実践、分析、討議」を大切に研究し、子どもの育ちが豊かになる保育を創ってきました。		
評価項目	自己評価	取組状況
①幼児理解を深めるための視点の学習	A	実践を持ち寄った毎月の学習会での分析・討議・まとめを繰り返す中で、深くこども理解と実践を深めました。
②保育環境研究	A	「保育環境」をつくるのが保育実践では重要です。環境整備をする中で保育環境について学び、改善を進めました。
③具体的な保育内容を考える	A	毎月の学習会は、実践記録を持ち寄った学習会で、日常の子ども理解を深め、保育学会・保育問題研究会全国大会に実践を提出し保育内容の充実を図りました。
④保育課程を見直す	A	毎月の実践検討会で見いだされたことを保育課程に照らし合わせ、年1回、保育課程の見直しをしました。
⑤保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	A	クラス便りを子どものつぶやきを中心に、保育の様子、子どもの様子、保育者の考えが伝わるよう、随時発行しました。保育参加・懇談、行事等に子どもや保育について分かりやすい言葉で伝えることに心掛けました。連絡帳の活用や送迎時などに積極的に会話をすることを心掛けました。園だよりを定期的に発行しました。ホームページは随時更新しました。

（2） 運営

評価項目	自己評価	取組状況
①教職員体制の改善、向上	A	正規職員・パート職員・職種に関係なく“子どもの最善の利益”をもとめる教職員集団をめざして学習をすすめています。
②保育環境の改善、向上	A	室内外、設備の安全点検をするともに、特に園庭の環境づくりをすすめました。
③運営全体について	A	2月7日静岡市の監査において保育内容の評価をいただき、特に大きな改善事項はありませんでした。

「2019年度 なのはなガーデンに関するアンケート」の報告

過日実施した標記のアンケート結果について下記のようにご報告いたします。今後の保育活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(配布枚数18 回収枚数16 回収率89%)

	はい	どちらでもない	いいえ
ア お子さんは保育園に通うのを楽しみにしていますか	14人 (87.5%)	2人 (12.5%)	0人 (0.0%)
イ お子さんが「成長したなあ」と感じることはありませんか	16人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
ウ お子さんは基本的な生活習慣が身に付いたと思いますか	16人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
エ 保育園や職員に子育ての悩みや疑問を相談しやすいですか	16人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
オ 連絡帳、おたより、懇談会、相談などを通して保育やお子さんの園生活は分かりやすいですか	16人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

3 今後取り組むべき課題

アについて	子ども一人一人の状況をつかみ、課題を見つけ楽しく登園できるように家庭との連絡を密にしていく
イ、ウ、エ、オについて	子どもの今の「ありのまま」をつかみ、共感し保育を創る中で、親との信頼関係・ネットワークを構築し、子育てのパートナーになる様に、保育を進めていく

子どもを取り巻く状況が厳しくなる中、親も子育てを通して親になる喜びを感じる事が難しい時代となっています。園では、子どもと親の理解を深め、より専門的な保育の知識や方法が必要となっています。来年度は、あおぞらの歴史の中で大切にしてきた実践の中核を確認し理論と実践を深め、さらに新たな保育方法を学び、保育の質を高めていきます。